

# 環境調整とスケジュール調整で転倒予防・ 家族負担軽減を認めた症例

利用者情報 男性

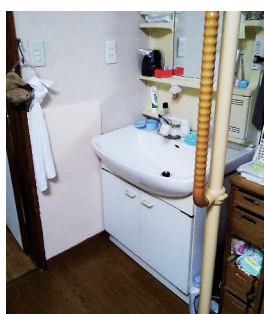
家族：妻と二人暮らし 日中独居 病名：進行性核上性麻痺 既往歴：骨折

## 【経過・現状】

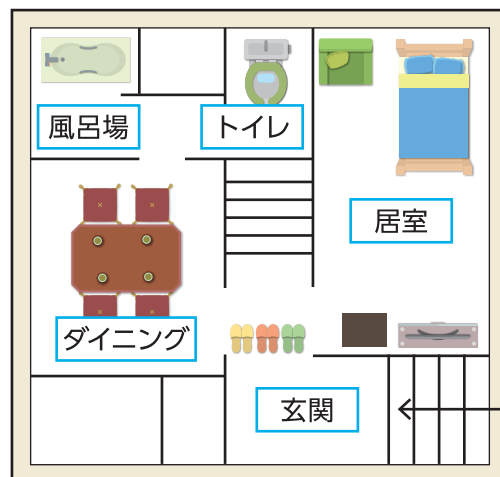
数年前から自宅での転倒を繰り返し、骨折の既往もある。  
妻は自宅近所で仕事をしているため、仕事の合間に何度も様子を見るために帰ってきていた。  
施設入所は検討しておらず、1日でも長い自宅での生活を希望。

## 【家屋状況】

3階建ての持ち家。2階に玄関があり、上がり框は20cm。  
その他、3cm以下の段差がいくつかある。  
居室からトイレまでは10m程度。

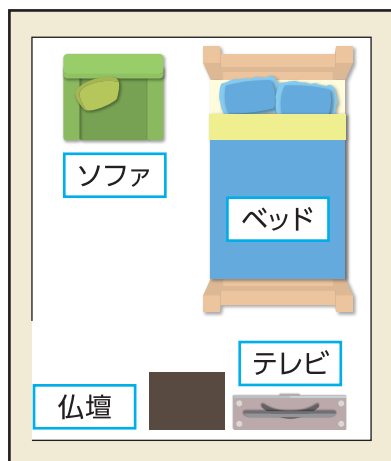


屋内歩行は伝い歩きで自立。  
寝返りができない時があると訪問リハ開始。  
方向転換時にふらつきがあるため手すり設置！



## ①介入初期（2020年4月頃）

起居動作も可能となり、リハビリでは屋外歩行も実施！！



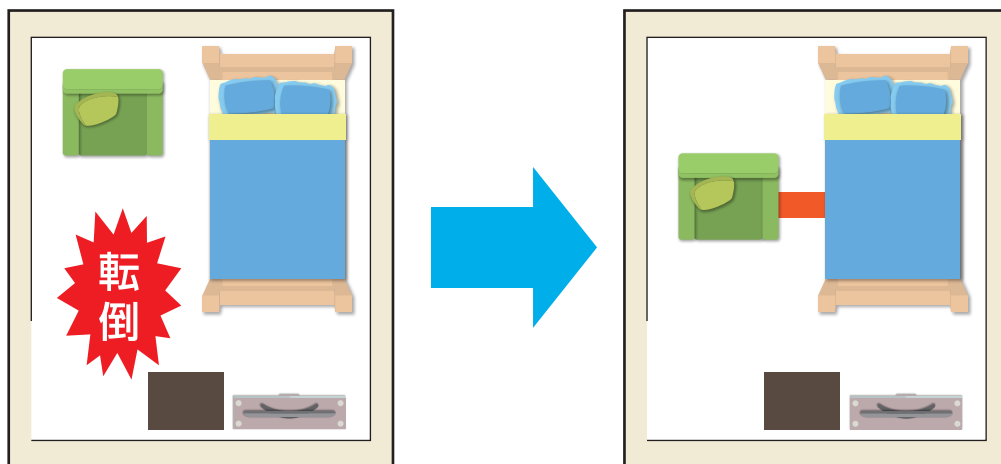
## 自宅内 ADL

動きの緩慢さはあるが歩行可能。  
トイレ動作も自立。



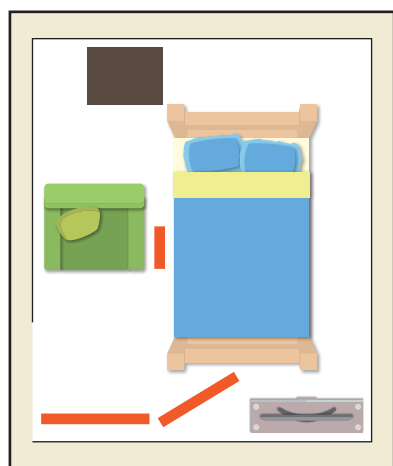
## ②介入中期：(2021年7月頃)

居室内での転倒が増加。支持物がない状態での方向転換時に転倒。  
眼球運動と頸部回旋が障害され、空間認識の低下が原因と考えた。  
常に上肢支持を得られる環境設定を行い、その後の転倒は減少。



## ③現在：(2022年2月頃)

空間認識が徐々に低下し、連続した支持物がないと歩行時にもふらつきを認めるようになった。  
居室内からトイレまで手すりを設置。日中は手すりを使用し、トイレ歩行も可能。



転倒リスクが高くなるのに合わせて、妻が日中に帰宅する頻度が増加。  
介護負担の軽減を兼ねて、訪問看護の頻度を増加して対応。  
マルチベッドも導入し、離床も安全に！



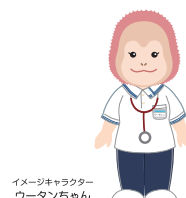
### 【まとめ】

進行性疾患を罹患しているため、毎月 ADL を見直し、三か月から半年毎に環境の見直しを行っている。  
本人・妻は自宅での生活を強く希望されており、それに応える形で訪問看護・訪問リハビリの頻度も増加。  
現在は転倒なく過ごすことが出来ており、本人・家族の満足度は高い。  
今後はトイレまでの歩行が困難になる可能性が高く、早期から対策を講じる必要があると考えている。



インテリジェントヘルスケア株式会社

〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満 4 丁目 11-23 満電ビル 3 階  
TEL : 06-6312-5000 (代表) FAX : 06-6312-5099  
<https://nursing.nursing-hc.co.jp/>



イメージキャラクター  
ワータンちゃん

ホームページはこちら!

